

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

					学校名()	京都市立鳳徳小学校			
					評価日	平成28年3月1日	学校関係者評価		
					評価者・組織	学校評価委員会	評価日	平成28年3月9日	
					分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会・学校評議員	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果			学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策	
1 確かな学力	一人一人の子どもの学力向上	・学習課題の明示と言語活動を経た課題に応じたまとめ・振り返りの徹底。	・ブレジョイント・ジョイントプログラム・研究会テストの結果。・年間反省での意	中・高学年では全体として全市平均を上回る結果であったが、低学年では課題が残った。	⇒	指導体制や学習環境を整えることで子どもたちが落ち込んでいる学習に取り組み、基礎的学力は身に付いてきた。特に高学年において話し合い活動や自分の考えをまとめて発表する活動も充実してきた。低学年から系統的に言語活動を取り入れていく必要がある。	年間計画として年度当初に鳳徳タイムやポスター発表会の時期や具体的な学習内容を決め、余裕を持って取り組めるようにする。一斉発語等、全員が自分の考えを伝える場面をつくる。組織的に読書環境を充実させ、100冊読書など、読書に対する主体的な取り組みができるようにする。	⇒	家庭教育力が高く、学校で落ち込んでいる学習する環境が整っている。家庭での読書については、保護者がいっしょに本を読んだり、本を選んだりする姿勢が大切である。
	基礎的な知識・技能の習得と活用	・少人数教育・教科担任制の実施。Tと協力指導体制による学習の充実。	・子どもはあらめずに学習している。・子どもは家庭学習の習慣が身に付いている。	概ね学力の定着が見られるが、D層の児童への支援は十分とは言えない。					
	言語活動の充実	・鳳徳タイムやポスター発表会等の実施。・読み聞かせ、100冊読書の取	・学校で自分の思いを話している。・家庭で本を読んでいる。	児童の実現度は他の項目より低く、保護者・教職員のニーズ度は高い。					
2 豊かな心	豊かな感性・情操を育む教育の充実	・伝統文化体験、宿泊自然体験等、体験活動の進化。・音楽活動の充実。	・子どもは進んであいさつをしている。・子どもは物を大切にしている。	児童の実現度は低くはないが、教職員のニーズ度は高い。	⇒	長期欠席もなく、概ね楽しく充実した学校生活を送っている。高学年での伝統文化体験では、地域女性会や専門家の協力によって、豊かな感性や情操を育て、道徳的価値観を自覚することにつながった。児童が主体的に取り組む感謝の会を実施することができた。	・児童会の主体的な活動による挨拶運動や規律の徹底を図る。	⇒	・子どもたちの主体的な活動を促すような工夫をする。
	支え合い高め合う集団作りの推進と絆づくり	・たてわり活動等。SC・SSWと連携したケース会議の充実。・感謝の会の実施。	・子どもは楽しく学校に通っている。・子どもは友だちと仲よくしている。	・子どものアンケートにおいても実現度は高く、地域の声による評価も高い。					
	道徳教育の充実	・道徳的価値観の自覚を求める指導。・あいさつ等学習規律の徹底。	・子どもはものを大切にしている。・子どもははきまりや約束を守っている。	規範意識は高いが、後片付においては保護者や教職員のニーズ度が高い。					
3 健やかな体	保健教育の充実	・すこやか週間の設定による家庭と連携した生活チェック・安全教育の徹底。	・子どもは早寝早起き等、健康を考えて過ごしている。・すこやかチェック	基本的な生活習慣は身に付いているが、睡眠時間が短く、朝一人で起きられない児童が多い。	⇒	体育科の学習では、主体的に様々な競技に取り組む姿が見られ、地域と連携したスポーツ活動には毎回多くの児童が参加した。すこやかチェックでは、睡眠に課題が残った。	・体育学習に必要な器具の充実。	⇒	・地域と連携したスポーツ活動には、多くの児童が参加しており、保護者の関心も大変高いことが感じられる。
	運動やスポーツの実践と体力の向上	・体育的行事や安全教育の充実。・地域と連携したスポーツ活動。	・運動会・マラソン大会における児童の変容・地域行事への参加	・大変意欲的に取組、かつ安全に気をつけて活動した。地域行事への参加は多かった。					
	運動やスポーツの実践と体力の向上	・音楽科研究の取り組み・音楽集会の充実。	・授業を伴った研究会での意見。・研究反省の意見。	音楽を通して共に学び合う姿が見られたが、組織としての課題は残った。					
4 独自の取組	進んで学び合い、共に生きようとする子の育成	・HATT(3小・1中)の取り組み。	・主任会での意見・かがやく丘コンサート、合唱演奏会への参加	子どもの実感について交流した。保護者・児童の参加が多かった。	⇒	・校内研究では、音楽を中心として3年、一定の成果は得られたが、組織的な課題が残った。子どもたちの学力向上につながる取組も充実させる必要がある。	・校内研究の組織を見直し、研究授業だけに止まらず、学力向上のための研修を実施することで、系統的な学習規律を確立できるようにする。	⇒	・子どもたちが発表する場を今後も充実させるために支援していきたい。
	小中一貫教育充実								・HATTスタンダード作成に向けて、計画的に話し合いを進め、29年度完成を目指す。

4 総括・次年度の課題

- 校内研究組織を見直し、研究授業や指導案検討、模擬授業などを実施すると共に、基礎的・基本的学力の向上へ向けた具体的な取組を充実させ、教員の授業力向上を目指す。
- 年度当初に鳳徳タイムやポスター発表会などを学校行事として年間計画を立てることで、見通しを持って指導できるようにする。
- 保護者、地域と連携しながら、子どもたちの主体的に学ぶ喜びを味わわせ、自ら学習に取り組んでいく姿を追究する。
- 地域と協働の取組がある強みを生かし、総合的な学習の時間の内容を充実する。地域性を生かした道徳の教材作成にも取り組む。